

西尾市での取り組み

西尾市からは、「災害ボランティア会議」の取り組みについて発表していただきました。西尾市では、ボランティア担当部局が福祉課ではなく企画課だったことで、「防災」と「まちづくり」をつなげて取り組むことができたという経緯をお話しいただきました。

ボランティアと行政の関係は？

発表者：金原建和



西尾市役所企画課市民活動推進室 主幹兼室長

Profile・・・1948年、静岡県浜松市生まれ。74年、西尾市役所入所（建設部建築課）。97年、企画部企画課（ボランティア市民活動担当）異動。98年、西尾市ボランティア市民活動サポートセンター開設。01年、西尾市ボランティア市民宣言（ボランティアの灯）。04年、にしおボランティア市民活動センター（ボランティア市民活動の窓口の一本化）開設。（※2004年6月5日現在）

■企画部局がボランティア担当

西尾市は、先進的だとよく言われます。それは企画課がボランティアやNPOを担当しているところが、非常によかったのだと思います。愛知県のほとんどの市町村ではボランティアというと福祉課の担当で、災害についてのボランティア関係も、ほとんどは福祉課が担当しているわけです。

ところが実際は福祉課が動いているわけではなく、社会福祉協議会に委託しておりまして、実際に活躍しているのは社会福祉協議会に入っているボランティアです。そして、だいたいこの社会福祉協議会でも、福祉のボランティアが中心となって動いているのです。

西尾市も同じでして、まちづくり関係とか環境とか、国際交流のボランティアは社会福祉協議会には登録できないということがあって、福祉系のボランティアと二つに分かれていまして、なかなかうまくいかなかったことがありました。ところが、6～7年前から、ボランティアとNPOを企画部局で関わろうという事になりました。ここがすごく幸いかなと思っております。ボランティアと市民活動の窓口をひとつにして施策を進めていこうということでやってきました。

■行政がボランティアにどうかかわるか

その時からボランティアの活性化をめざしてきたわけですが、ボランティア側からすると「いらんおせっかいだ」とか、「今までも俺らは誰も行政の仕事を手伝わずにきた」という意見があります。そういうことで、行政がどういうふうに支援していったらいいとか、どうい

うふうに関わっていったらいいか、なかなかわかりませんでした。

しかし、上司のほうからボランティアを活性化しろということを言われまして、悩みに悩んだわけです。一方はいらんおせっかいというし、「もし何か手伝うんだったら補助金出せ」とか言われて、お金がないのにどうするのかも悩んだわけです。

■まちづくりへの拒否反応

また、私たちの市民活動推進室の事業は、ボランティアとまちづくりなんですけど、まちづくりはなかなか難しいんです。住民は全く無関心なのです。私たちが地域のために、「じゃあ、まちづくりをやりましょう」というふうに入っていくと、「お前ら何をやりに来た、何をやらせるつもりだ」と拒否反応をします。私たちは住んでいる人のために何かいいことをしましょうとやってきたのに、「いらんおせっかいだ、来んでもいい」というわけです。

町内会にしても、町内会活動があるわ、自治会の活動はあるわ、民生委員の仕事はあるわで、役員さんたちは本当に忙しいんですね。それに加えてまたまちづくりをやるのは、無理かなということを感じました。

■まちづくりのキーワードは「防災」

ところが、災害という切り口で、自主防災ボランティア会議のボランティアさんたちと関わっていくことで事情が変わってきました。防災というのは、いろんな人が関わってきます。地震が起こったらどうするのか、災害弱者の支援はどうするのか、ということから考えていくと、ボランティア活動も活性化するし、まちづくりも上手いきそうだとことがわかりました。それなら、市民活動推進室は、災害を中心にやっていこうと決めたわけです。

その中で、西尾災害ボランティア会議の牧野さんという方に会いました。私どもが6年間、この仕事に携わってきた中で、この方とお会いできたこと、一緒に仕事ができることを、最大の人材を得たと思っています。

災害ボランティア会議の方たちに、ボランティア養成講座の企画運営をお任せしたり、自主防災講演会の委託をして企画運営をしてもらおうと、市役所がやる講演会、養成講座と全然違います。僕たち、行政マンにはできなかった、本来はやらなければいけないけれど忘れていたようなことを、市民の人たちと一緒に勉強したり研修したりしながら、市民の視線で企画運営をしていただけます。

その一方で、僕たちはこの仕事にずっと強く関わってきたので、市民の人たちに任せることで行政から離れていってしまうことがさびしいのです。そこで寄っていくと「うるさい、俺に任せる」ということで、怒られる。だから、べったりくっついてはいないで、適度な危機感というか、適度な緊張感のあるような関係が、この活動がうまく維持している要因だと思います。

「災害ボランティア会議」の取り組み



発表者：牧野明広 西尾災害ボランティア会議 代表

Profile・・・1961年、幡豆町生まれ。1990年、幡豆町消防団に入団。その後幡豆町消防団第2分団分団長。1995年、愛知県防災ボランティアグループに登録（小操研）。1999年、愛知県防災ボランティアコーディネーター養成講座終了。2000年、西尾市にて西尾災害ボランティア会議を設立。同年、愛知県・西尾市総合防災訓練のボランティア村を企画運営。東海豪雨水害・大府市水害ボランティアセンターにて活動。2001年、西尾市防災会議委員に選任される。2003年、西尾市より「市防災講演会」及び「市災害ボランティアコーディネーター養成講座」の企画・運営を受託。（※2004年6月5日現在）

■災害救援ボランティアグループの担当部署はどこ？

「西尾災害ボランティア会議」は、2000年に西尾市でボランティアグループとして活動を開始し、4年目に入ったまだ若い団体です。西尾市で、私たちの会が4年間、なんとなく細々と続けてこられたのも、金原さんのような方が西尾市にいたからだと思っています。

実際、私たちが会を立ち上げたときに、災害救援のボランティアグループだということで、「福祉課は関係ない」「社協も違うよ」といわれ、市の防災担当の総務部では「防災ということでは非常に関わりがあるのだけど、あなた方はボランティアだからここじゃない」といわれ、たらいまわしになり、行政関係との連携なしで行こうかなと思ったときに、金原さんが環境を作ってくださいました。本当にいい人に恵まれたので、活動が継続してこられたのだと思います。

■災害ボランティア会議の役割

私たちは、体験型の訓練や学習会を通じて、災害時の救援活動やボランティア活動のきっかけ作りを行うことを目的として、西尾市や西尾市近隣の防災訓練の企画運営や、西尾市の防災ボランティアコーディネーター養成講座の企画運営などをさせていただいております。

私たちには、割合と高い意志があって、災害が起こったらがんばるぞという気持ちでやってきたんですが、そうすると、自分たちの仲間内だけの自己満足だけで終わってしまうような気もしてきていました。もっと、地域の皆さんに、災害という切り口で関係を持ちながら、意識の向上や啓発に取り組めないかと思ったときに、西尾市の教育委員会の教育長が、西尾市のある小学校の校長先生たちに、学校と地域で連携を取った活動をしたいなといわれました。その中で、防災というキーワードが、地域の皆さんと連携してやれるのではないかということで、私どもの会に打診があり、そこで、PTCA活動に私たちの会も関わるようになりました。

■PTCAってなに？

このPTCAは、既存の「PTA」に、地域・コミュニティの「C」を加えて「PTCA」になったもので、家庭でしつけ、学校で教え、地域で育てる、こういった教育理念の下、学校の先生

方、父兄の方、また地域のみなさん、また、その中のいろいろな各種団体で、子どもたちの総合学習的などころもサポートしていきましようということで始まりました。

設立の目的は、やはり、子どもたちの健全育成、子どもたちの安全を守るということで、その先には、自分たちのふるさと西尾を愛する子どもたちになってもらいたいと、結構、かつこよくきれいなことをうたっています。

構成メンバーは、PTA、それから校区内の各町内会、15から20、多いところだとそれ以上になりますが、そういった町内会の社会教育推進委員、民生委員、行政、警察、消防、商店街、そして、われわれのようなボランティアです。事務局は学校の中にあります。



■防災フェスタ

PTCAは、防災、防犯、子どもたちの安全がまちづくりの目的としてありますので、防災、防犯、交通安全とか、住んでいる町を再発見してもらおうということで、すてきまち発見を行っています。

私たちの会が関わっている防災というテーマでは、2001年から防災フェスタをやっています。西尾小学校が2001年からPTCAを始め、2003年は、その隣の学区の花ノ木小学校が始めました。

これは、2003年にやった花ノ木小学校の防災フェスタの様です。9時半から13時までということになっておりますけど、7時に、合図の花火があがると同時に、児童、生徒、親御さん、それから隣近所の地域の方たちが、学校へ避難してきます。これは、集団登校をしながら、集団避難する形をとっています。

その後、9時半から開会セレモニー、10時15分からは親子、または地域のみなさんが体験できるよういろいろな体験型の防災展



をしています。各学年ごとにテーマを設けて、体験型のものを実施しました。



防災カルタ

これは一年生の**防災カルタ**の様子です。今の子どもたち、テレビゲームとかそういったもので、カルタはどうかと思ったのですが、結構、目をきらきらさせて、防災カルタに取り組んでくれました。初めの一歩的に関わっていただきました。



ハイゼックス米

これが二年生の**ハイゼックス米**です。特殊な袋の中でお米が炊けるというやつです。結構、二年生の子どもたちが、器用にやっていました。



応急手当

これが三年生の**応急手当**、三角巾です。これもまた、お父さん、お母さん、隣近所の人と、大きな三角巾で応急手当を施しました。

これは四年生の**防災オリエンテーリング**ですが、学校周辺の防災関係の施設だとか、また、災害時に役に立つといわれる伝言ダイヤル、災害伝言ダイヤルの公衆電話がどこにあるのか、そういったところを、お父さんお母さん、また地域の皆さんと、一緒に回りながら確認するというのをやっていただきました。たまたま花ノ木小学校の近くには、西尾市の防災倉庫があり、その中に、何が入っているのか見ながら、こんなことでいいのかな、この量って適正なのかって、その判断は個々に感じ取ってもらえばいいことですが、とりあえず中を見ていただきました。これは外の風景です。



防災オリエンテーリング

これは五年生の**簡易担架づくり**です。物干し竿とか、そういった竿と毛布を使っての簡易担架です。五年生になると体力的に大きな子どもさんも多くなってきたので、自分たちで簡易担架をつくって人を運べるんだということも体験していただきました。



簡易担架づくり

六年生は、名古屋大学の桑原先生にお越しいただいて、専門的な部分を聞いていただきました。その後、非常食の炊き出し練習といったものを行いました。

それから、自分たちの身を守るために、家具の転倒の様子を見ていただきました。西尾市のある自主防災会の方が手作りした、たんすの転倒防止器具というものも見ていただきました。これは、家屋の耐震診断ということで、広く子どもさんや親御さんたちに PR させていただきました。



家具の転倒防止



このほか、小学校の中にある防災倉庫の中身を展示したり、県の起震車に要請をしてきていただき、実際の揺れを体験したりしました。

また、炊き出しですが、この日はトン汁を 1800 食つくりました。左の写真で、ラインの右側に入っている子どもさんたちは、この小学校OBの中学校の生徒さんです。児童、生徒、親御さん、地域の方たち、そして中学生になったOBの方たちも、自分たちの小学校に戻って、自分たちの後輩たちとかかわりを持ちながらというところをイメージして、活動に参加をしていただきました。

このほか、小学校の中にある防災倉庫の中身を展示したり、県の起震車に要請をしてきていただき、実際の揺れを体験したりしました。

■防災フェスタで学んだこと

最後に効果と今後の対応についてお話しします。

子どもと一緒に地域の皆さんや親御さんたちが学校に向いながら、子どもたちの通学路の危険箇所をチェックしますと、今まで



子どもたちによる防災マップ作りのようす

大人が気にしなかった、腰ぐらいの高さのブロック塀が、手をつないで歩く子どもの高さであると、これやっぱり危ないねとか、結構危険なところがあるんだなあと感じます。それから防災とは違うけれど、車の通行量も多くて、毎日事故にあわずにすむのかなとそういった気づきもありました。「見聞く」から体験型、それから地域住民の方たちが、今まで以上に学校に目を向けていただいたということは、子どもたちに目を向けていただけたということです。

その後、子どもたちによる防災マップを作りました。住宅地図を張り合わせたものに、子どもたちが調べた情報を書き残しました。それを印刷したもの(左写真)4500枚ほどを、この小学校区に全戸配布しました。

